

世の中にあふれている情報を語り尽くそう

本単元で育成する資質・能力

「主体性」「課題解決力（探求力）」「振り返り力（メタ認知）」

- 1 日 時 令和元年9月18日（水）6校時（14：00～14：50） 場所 1-A自教室
2 学年・組 第1学年A組（男子17名，女子14名，計31名）

3 単元観

本教材は、学習指導要領「(C)読むこと(1)イ・エ(2)イ」「知識及び技能(3)我が国の言語文化に関する事項(1)ウ(ア)(イ)」と対応して設定されている。

説明的文章における系統上の位置付けとしては、小学校高学年で「課題解決のために、意見文や解説文を利用する。」「編集のしかたや記事の書き方に注意して新聞を読む」を既習している。そのため、本学年では「図表と本文との対応関係を適切につかみ、新聞などの“非連続型”の情報を読む力を身に付ける」ことにも重点を置いている。

ここでの学習が、第2学年での「意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること」、第3学年での「情報の信頼性の確かめ方を理解し使うこと」という学習に発展していく。

4 生徒観

本学級の生徒は、自らの考えを主体的に述べるができる。また、自己と他者との意見の相違に対して、質問や反論を投げかけることによって議論に転じるという、発展的な学習場面も多く設けることができている。

しかしその一方で、恒常化した学習に対する意欲の低下も見られる。具体的には、自らの意見にこだわるあまり言い放して終わったり、物事を多角的に見たりすることができていない部分もある。

また、1学期末に実施した授業評価アンケートにおいて、「授業は、よく分かります。」に対する肯定的回答は、96.2%であり、“よく”に該当する生徒は50%に及んだ。しかしその一方で、「学習の振り返りをするときには、もっと考えてみたいこと、もっと調べてみたいこと、もっと工夫してみたいことなどを考えています。」という振り返りの観点は、“よく”の割合が30.8%に留まった。このことから、授業時には理解できていても、それを“社会生活に生かす”ことまでには及んでおらず、もっと深く知りたいという主体的な学習者としての態度も身に付いていないように見受けられる。

5 指導観

前述のような課題を打開すべく、本教材を選択した。説明文のなかでも“記録文”という客観的データや資料に基づく文章を読解することで、事実と考察を読み分けるような、社会生活でも活用可能な指導の展開を設定した。

読むということは、読み取ることだけでなく、読んだことに対して自分の考えをもつことまでも含んだ、本来動的な営みである。「構成」や「展開」に注意して読み取ることを通して、内容や表現に対して、生徒が自分の考えを持てるよう指導したい。これは、PISA調査や全国的な学力調査でも求められた重要な力である。

本校の実態は、H30全国学力・学習状況調査結果は、国語A（基礎）が78（全国比+1.9pt）国語B（応用）が63（全国比+1.8pt）。

H29全国学力・学習状況調査結果は、国語A（基礎）が78（全国比+0.6pt）国語B（応用）が70（全国比-2.2pt）。

以上の結果より、応用に対して課題があることが見受けられる。本教材を通して、目標達成のための情報収集や、情報の整理分析についての力を身に付けさせたい。

さらに、生徒主体の授業運営で教材を読み進め、基礎・基本の定着を図る。その上で、生徒の提示した疑問や課題を解決に導き、主体的な学びを実現するとともに、本教材を学習する意義を見出したい。

6 単元の目標と評価規準

〈 単元の目標 〉

- ・文章の構成や展開などに注意しながら人物の心情の変化や事実のおもしろさなどを読み取ることができる。
- ・心情や事実を読み取り，自分の考えを持つことができる。

〈 評価規準 〉

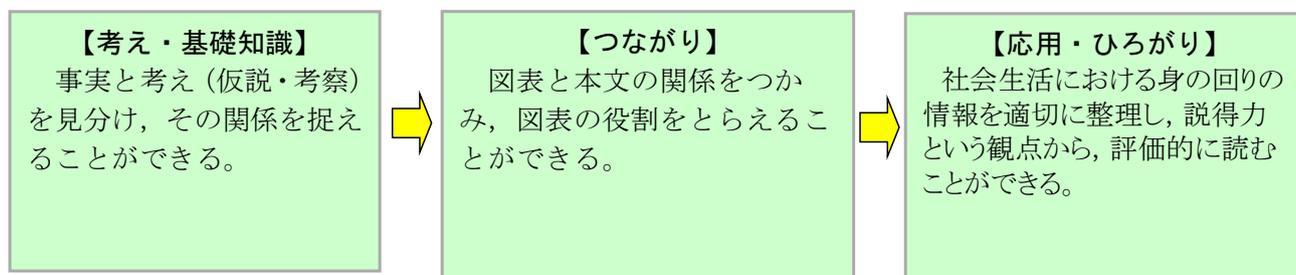
国語への関心・意欲・態度	読む能力	伝統的な言語文化
・記録の文章に興味をもち，具体的な動物の生態から，生き物同士の結びつきを考えようとしている。	・観察，仮設，検証，考察などの論理展開を押さえ，それぞれの内容を文章と図表を対応させて，理解しようとしている。 ・本文の記述や図表などから，根拠となる事実を理解し，その事実を支えられた筆者の意見や考えを捉えようとしている。	・文脈での語句の意味を正確に捉え，読み取りを深めようとしている。

7 指導と評価の計画

○本単元で身に付けさせたい資質・能力と評価規準

資質・能力	評価規準		
	I	C	E
主体性	・課題に向き合うことができる。	・図表の効果に気付き，課題解決にそれを活用しようとしている。	・情報を基にした記録文が，社会生活において幅広く活用されていることを知り，自ら発信しようとしている。
課題解決力 (探求力)	・事実と考えを読み分けることができる。	・事実に基づく筆者の考えがふさわしいかどうか，評価的に読むことができる。	・情報を活用し，事実を基にした文章によって，読み手にとって説得力のある文章を書くことができる。
振り返り力 (メタ認知力)	・文末表現に着目して読むことができた実感している。	・内容表現に着目して読み分けることができた実感している。	・説得力のある文章作成に向けて，情報を基に推敲することができた実感している。

【ICEモデル】



(全 1 1 時間)

次	学習活動	生徒の思考の流れ	観点				評価	
			関	読	話	知	◇評価規準	★資質・能力(評価方法)
1	課題の設定 本文を通読し、内容を理解するとともに、今後の学習の見通しをもつことができる。							
	<ul style="list-style-type: none"> 本文を通読して、自分なりに理解したことをまとめる。 「観察のきっかけ」を読み、文章の話題を捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> 筆者が記録した文章から、得られる情報を整理しよう。 	○	○				◇★教材文を何のために読むのか理解している。(行動観察)【主体性】
<p>(単元を貫く課題) ※教師側の捉え</p> <p>教材文に示されている、仮説・検証・考察の手順に沿った文章について、その論理構成の意義について考えることができる。</p>								
2	情報収集 「観察からわかったこと」を読み、図表に注意して、事実を読み取ることができる。							
	<ul style="list-style-type: none"> 図表の役割について考える。 事実と考えに分類しながら読む。 	<ul style="list-style-type: none"> 図表があることで、文章と関連付けて読むことができるな。 文末表現に注意して、述べられている内容の真偽を確認する。 	○	○				◇★読み取りを基にして、内容理解に努めている。(行動観察・ワークシート)【課題解決力】
3	情報収集 「仮説」「仮説の検証」を読み、仮説と根拠となる事実、検証結果を読み取ることができる。							
	<ul style="list-style-type: none"> 図表が筆者の考えをどのように支えているかを読み取る。 それぞれの図表の特徴をまとめる。 記録文の作成という単元のゴールを示す(パフォーマンス課題) 	<ul style="list-style-type: none"> 図表が、筆者の示す仮説の根拠をより明確なものにしているな。 用いる図表によって与える印象が違うのだな。 	○	○				◇自分なりに図表の効果を考え、まとめることができている。(ワークシート・教科書) ★説明的な記録文について、仮説・検証の展開に目を向けることの効果を実感している。(OPPAシート)【ふりかえり力】
5	情報収集 「考察」を読み、筆者の導き出した結論や今後の課題を読み取ることができる。							
	<ul style="list-style-type: none"> 記録文の流れに沿って述べられた、筆者の「考察」部分について自分なりに解釈する。 筆者の「考察」を批評する。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの“記録”によって述べられた考察は、筆者のどのような思いが込められているのだろうか。 筆者が述べていること以外に、考えられる点はないだろうか。(自分はこう考える) 	○	○				◇★筆者の考えに迫る解釈をしている。(ワークシート)【課題解決力】 ◇★述べられている記録を基にして、「考察」部分を批評的に読んでいる。(ノート)【主体性】 ◇また、記述した考えを他者に伝えることができる。(行動観察)

7	整理・分析	「検証」「証明」「考察」「裏付け」の語句の意味を捉え、ちがいを説明することができる。					
	<ul style="list-style-type: none"> ・上記4つの語句の違いを明確にする。 ・調べた“ちがい”を説明し、例を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・類義語の意味は、辞書を使って調べてみよう。 ・正しく使うためには、正しい理解が必要だな。 			○	○	◇★語句の微妙なちがいに気づき、その用途によって使い分けができる。(ワークシート)【課題解決力】
8	まとめ	筆者の考察の導き出し方について、わかりやすく感じたところや気づいたことについて意見を述べ合う。					
9	<ul style="list-style-type: none"> ・第6時の批評文を基に、筆者の論理の展開についてまとめる。(KJ法を用いる) ・グループディスカッションおよびワールドカフェ形式を用いて、「わかりやすい説明文とは」のテーマについて話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・要点を出し合うことで、わかりやすい文章に必要な要素が視覚的に理解できるな。 ・他者の多様な意見によって、新しい気づきや発見があったな。 	○		○	<ul style="list-style-type: none"> ◇自身の言葉でまとめ、考えを伝え合うことができている。(行動観察) ◇多様な意見に対して、自分の考えをもって話し合いに参加することができる。(行動観察) 	
10 本時	応用	身の回りにある情報から、適切な事実を読み取り考察することができる。					
	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な情報(図表)から一つを選択し、事実を読み取る。 ・事実を根拠にして、自分なりに考察する。 ・考察したことを述べる。 ・その考察に対して補足や疑問を投げかけ、議論する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさん情報があるけど、最も考えたいテーマを選択しよう。 ・これまでの学習の通り、事実を列挙し、考察してみよう。 ・他者の考察を聞いて、自分なりに考えることをどんどん伝えよう。 			○	○	<ul style="list-style-type: none"> ◇適切に事実を読み取り、考察に結びつけることができている。(KJ法・ふせん) ◇聞き役になるだけでなく、考察に対する自分なりの考えを述べることができる。(発表)【課題解決力】
11	発展	図表を添えて日記を書くことができる。					
	<ul style="list-style-type: none"> ・どうすれば説得力が増すのか考える。 ・図表を添えた日記を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的にわかりやすくなったり、場合によっては文章を割愛できたりするのだね。 ・日記を一つの記録文として残すために、ふさわしい図表はなんだろうか。 			○	○	◇適切な図表を選択し、自らの体験を記録文として書き記している。(原稿用紙)【書く力】

パフォーマンス課題

育てたい資質・能力	主体性, 課題解決力(探究力), 振り返り力(メタ認知力)
教科の評価規準	図表と文章の関係を適切に捉えて考察することができている。

パフォーマンス課題のシナリオ

A: 図表を見ただけでは、何を表しているのか分かりづらいよね。
C: そうかな? 図表だからこそ、見やすくシンプルなものになっているんじゃないの?
B: 確かに。シンプルだし、見やすくわかりやすいよね。
A: でも、図表だけだと細かい部分についてはわからないから、具体的な説明が欲しいよね。
C: そうかと言って、文章だけで説明されても、それはそれでわかりづらいし。
A: そうか。だからこそ、適切に文章と図表を組み合わせることで、説得力のある記録文ができあがるのね。まさに「シカの落ち穂拾い」が説得力のある記録文だよね。

先生: その通りです。世の中には、たくさんの情報があふれていますが、そのほとんどが
図表(データ)を根拠にして述べられたものなのです。
つまり、それを適切に読み取ることができないと、世の中は誤った情報であふれてしまいます。

先生: では、図表(データ)を用意しました。
しかし、みんなの考えるように、この図表だけでは何を表しているのか分からないので、適切な文章を加えて説明してください。

先生: その際には、学習したことを基に、事実と仮説を明確に示してください。

予備的ルーブリック

尺度 (評点, レベル)	記述語 (パフォーマンスの特徴)
3 理想的	課題に対して、適切な情報を選択し、適切な解説を加えることで、説得力のある記録文をかくことができる。
2 合格	記録文に含まれた事実や考察を、自分なりに解釈することができる。
1 乗り越えさせたい実態	記録文の意義を実感することができる。

8 本時の学習

(1) 本時の目標

身の回りにある情報から適切な事実を読み取り、自分なりに考察し、説得力のある記録文を書くことができる。

(2) 本時の展開

学習活動	◇指導上の留意事項 ◆配慮の必要な生徒への支援	評価規準 (評価方法)	資質・能力 (評価方法)
1. 漢字の学習をする。〔5分〕			
○漢字の学習	◆スクリーンにフラッシュ映像を映し出す。		<p>【思考の流れ】</p> <p>これまでの学習では、事実と考察について、しっかり読み分けることができていた。</p> <p>世の中にはたくさんの図表(データ)があふれているけど、それを正しく読み取ることが必要だ。</p> <p>正しく読み取るためには、適切に事実を列挙する必要がある。</p> <p>事実だけに留まらず、自分なりに仮説を立てることで、記録文の作成につながる。</p> <p>自分では正しいと思っていた見方も、視点を変えれば違った見方もあるのだと、議論を通して学ぶことができた。</p>
2. 学習内容を確認する。〔5分〕			
○学習内容と目標を確認する。 ○本時の流れを確認する。	◆活動の手順を示すことで、学習の見通しを持つ。 ◆既習事項である事実と仮説について確認する。		
<p>【本時の目標】</p> <p>適切な事実と仮説によって、説得力のある記録文を書くことができる。</p>			
3. 説得力のある記録文を作成するための議論を行う。〔30分〕			
○自ら考察したい課題を選択する。 ○図表(データ)を基に、読み取れる事実を列挙する。 (個人 → グループ) ○事実に対して、仮説を加え、記録文(発表用)を完成させる。 (2つのグループ) ○グループ毎に完成した記録文を、全体に交流する。 ○発表に対して質問や意見を投げかけることによって、議論に結びつける。	◇あくまで個人の興味関心に基づくものを選択させる。 ◆個人思考ののちにKJ法を用いて、視覚的に理解を全体共有する。 ◇選択データ毎(2つ)に即席グループを形成して話し合う。 ◆発表中は図表(データ)を画面に映し出す。 ◇深い理解につながるよう、納得のいくまで質問を続けるよう促す。	◇仮説について、事実を根拠として述べることができる。(行動観察) ◇課題を“説得力のある”としているため、よりよい記録文になるよう追求していく。	
4. 本時のまとめをする。〔10分〕			
○議論による気づきを発表する。 ○振り返りを行い、学びの自覚を記録する。	◇本時の学習を通して、説得力のある記録文に必要な要素は何なのか、さらに理解を深める。 ◇OPPAシート(1枚ポートフォリオ評価)を活用する。		★本時の学習を通して何を学んだか認識し、今後どのように活用していくか考えて書いている。【振り返り力】